

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 授業改善につなげる ICT の効果的な活用

これまでの  
教育実践の蓄積



ICT



学習活動の一層の充実  
主体的・対話的で深い学び  
の視点からの授業改善



斉学習

一人一人の反応を捉えた  
双方向型の学習へ



個別学習

一人一人の学習状況や理解度  
に応じた学習へ



協働学習

一人一人の考えを即時に共有  
多様な意見を交流し合う学習へ

## 例えば・・・

- 一人一人の考えを同時に一画面に映し出してみんなで共有する。
- 先生から配信された課題に取り組み、クラウドを通して提出する。
- 学習アプリやデジタルドリル、動画教材の活用で、自分の学習状況や進度に合った問題に取り組む。
- インターネットを用いた情報収集や、写真・動画による記録を行い、デジタルによる資料・作品制作を行う。
- 録画機能や音声認識機能を使って、英語のスピーキングの練習や発音のチェックを行う。
- リアルタイムで考えを共有しながら、グループで資料を作成する。
- 他校の子供達とつながり、交流したり議論したりする。

etc...



教育の情報化に関する手引（文部科学省）参照



## 教科等の指導におけるICT活用の基本的な考え方



学習指導要領に基づき、**資質・能力の三つの柱をバランスよく育成**するため、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとして I C T を積極的に活用し、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげる**ことが重要です。

### 〈資質・能力の三つの柱〉

学びを人生や社会に  
生かそうとする  
学びに向かう力、  
人間性等の涵養

生きて働く  
知識及び技能の習得

未知の状況にも対応  
できる  
思考力、判断力、  
表現力等の育成

### 【留意点】

- 資質・能力の育成に、より効果的な場合に I C T を活用します。
- 限られた学習時間を効率的に運用する観点から、I C T を活用します。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（文部科学省）参照

# 授業の流れを意識した1人1台端末等の活用場面（例）

効果的な活用に向けて、以下のことを明確にして、子供達と共有しましょう！

- ★ ICTを使う **よさ**（時間・空間を超える、試行錯誤のしやすさ等）
- ★ ICTを活用する **目的**（課題を明らかにするため、情報を整理するため、考えを比較するため等）

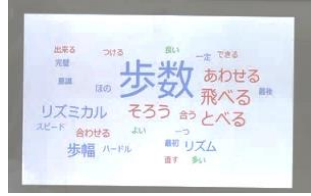
〇〇に  
端末を  
使いたい！



導入場面

## 課題や学習内容の確認

【事例】  
テキストマイニングを用いて、前時の振り返りの傾向を量的に捉えることで本時の課題へつなげる。



## 課題を明確にするために

▶ テキストマイニング等の視覚的な情報から、子供が課題を見つけ出すことができるように、着目するポイントを適宜確認するなどして課題を明確にすることが大切です。

## 個人で考えをもつ

【事例】  
実験の様子を動画撮影したものを繰り返し視聴しながら実験結果について考察し、自分の考えをデジタル付箋等を用いて整理する。



## 課題解決に向けた活動にするために

▶ 端末を使ってまとめること自体が目的にならないようにすることが大切です。何のために端末を使うのかを意識させるために、課題解決への見通しをもたせたり、各種機能を用いる意図を確認したりします。

## ペア・グループで交流

【事例】  
話し合った内容をまとめるシート（思考ツール等）とデジタル付箋を用いて、ペアやグループの考えを共同編集する。



## 思考や理解を深めるために

- ▶ 互いの考えを交流する際には、端末の操作に終始しないようにします。
- ▶ 複数の考えを大型提示装置や個々の端末に一覧表示するだけでなく、「自分の考えとの共通点を見つけよう」「なるほどと思ったところを見つけよう」など視点を明確にすることが大切です。
- ▶ 端末とノートを子供自身が使い分けられることができるようにすることも大切です。「自在に書くことができるからノートにしよう」「後で情報を整理し直したいから端末上でまとめよう」など、どちらを使うか選択できる場を設定することも考えられます。

## 全体で交流

【事例】  
ペアやグループの考えを大型提示装置や1人1人の端末の画面に示しながら、伝え合う。



## まとめる

## 振り返る

【事例】  
アンケート機能を用いて、本時のまとめや振り返りを記載する。全員の回答を共有し、次時の学びにつなげる。



## 学びをつなげるために

▶ 板書や製作物の画像、自分の動きや話し方の動画などを振り返りとともに蓄積することも考えられます。

展開場面

終末場面

★ 教科等のねらいを達成するために、ICT を効果的に活用できていたかを **子供を主語にして検証**することが大切です！

